

「健康日本21」

厚生労働省「21世紀の国民健康づくり運動」のおすすめは？

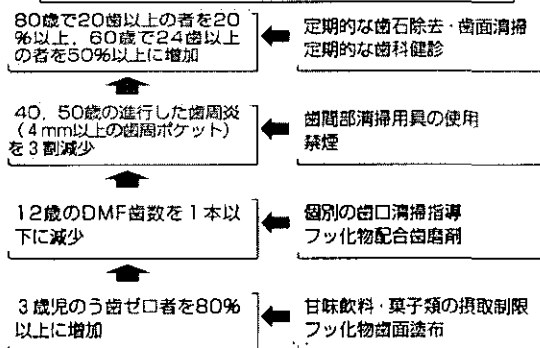
単なる延命でなく健康な寿命を伸ばすことを目標として生活習慣の変容を国民に呼びかける「健康日本21」の中に、9つの課題の一つとして「歯の健康」があげられています。

生涯にわたり自分の歯を20本以上保つことにより健全な咀嚼能力を維持し、健やかで楽しい生活をすごせるよう支援する8020(ハチマル・ニイマル)運動が、すでに平成元年から提唱・推進されていますが、「健康日本21」における歯の健康目標は、この8020運動に年代別の達成目標と行動指針をあたえたものです。

健康日本21には、その目標として歯の喪失防止の目標値を示すとともに、ライフステージに応じた歯科疾患の予防の目標が設定され(図)、それぞれの目標を達成するための年代別の具体的なリスク低減指針も掲げられています(図)。若年者ではセルフケアの効果がかなり大きく、高齢者や有病者では個人の口腔内状況に応じてきめ細かな指導や専門家による清掃が特に重要となります。

歯科疾患は自覚症状を伴わずに発生することが多く、疾患がある程度進行した時点で症状が生じます。そのため、定期的に口腔診査を受け、適切な予防処置を受ける習慣を維持することが歯の健康保持に重要で、健康日本21は国民の歯科のかかり方をも問い直しているといえます。

「健康日本21」=8020運動の目標と指針



「健康日本21」は、幼児のう蝕予防には、フッ化物歯面塗布ならびに甘味飲料の摂取制限を、学齢期にはフッ化物配合歯磨剤の使用と個別的歯口清掃指導を、歯周疾患予防には禁煙と歯間部清掃を奨励しています。そして中高年においては歯の喪失防止のために定期的な歯科受診が必須とされています。

体はいつも戦っています

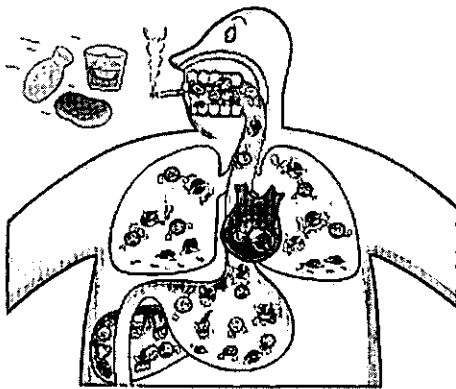
歯の健康は、口や歯に注意を払うだけでは守れません。

虫歯も歯周病も、生活習慣病であると同時に、細菌がひきおこす感染症です。

感染にたいする闘い、病原微生物と体のしのぎあいは全身で行われていて、口の中はその一つの戦場にすぎません。

体のあちこちで消耗やストレスが続けば、外部にさらされた口の中の闘いに十分に対処できません。体が弱ると、ふだんはおとなしくしている微生物が勢いをぶり返して「日和見感染」をおこします。

疲労やストレスの蓄積、喫煙や深酒、食べ過ぎや無理なダイエットは、すべて体を消耗させて感染に弱くさせてしまいます。いくら口の中に注意をはらっても、生活に無理があると口の病気が悪化したり改善しないのは、そのためです。



体は一つの小さな地球です。

口の健康は生活や健康にとってかけがえのないことを理解いただけましたでしょうか。

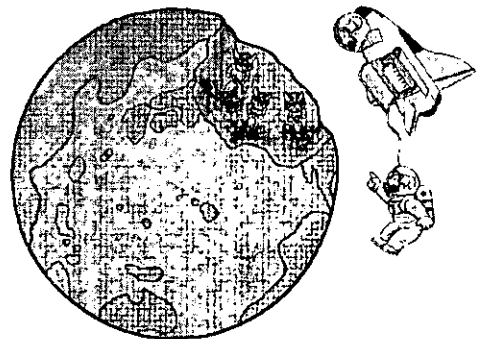
歯の病気を防ぐ方法もお伝えしました。

そして虫歯も歯周病も生活習慣と細菌の双方が原因となること、病気の発生や進行には、直接の原因(細菌やウイルス)だけでなく環境と体の感受性が互いに影響しあうことも理解いただけたと思います。

体の中にはいっぱい微生物がいて、食物の分解や栄養分の吸収を助けるなど共生しています。腸内細菌が減少すると下痢をしたり、口の中の細菌が薬で抑えられると菌交代現象といってカンジダなどのカビが増殖したりします。

体は一つの小さな環境です。環境にはいつもバランスを保つ配慮が必要です。

健康は健口から・・・お口の健康を保ち楽しい毎日を快適に過ごされることを祈っています。



サンプル請求先一覧

ジェルコートF(クロルヘキシジン配合剤)

ウエルテック株式会社

大阪市北区豊崎3-19-3 ピアスタワー

Phone 06-6376-5533(代) Fax 06-6376-5622

SAMフレンド8020(歯間清掃ブラシ)

糸ようじ・デンタルフロス

サンデンタル株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場4丁目8番9号

TEL.06-6245-0950 FAX.06-6245-7690

スポンジブラシ「トゥースエッテ」

井上アタッチメント株式会社

〒110-0005 東京都大東区上野1-16-5 産経ビル3F

TEL.03-5688-8725 FAX.03-5688-8780

三角ようじ

株式会社 広栄社

〒586-0037 河内長野市上原町885

TEL.0721-52-2901 FAX.0721-54-1092

薬用フレッシュミント「リステリン」

コンパクトスリム歯ブラシ

株式会社ジーシーDIC学術研修係

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-14

TEL.03-3815-1511 FAX.03-3815-3421

参考書籍:

「いきいき生きる一介護サービスを受ける高齢者の口腔ケア」
(新庄文明:デンタルダイヤモンド社, 2000)

「よい「歯」でイキイキ健康ライフー成人病予防のための歯の知識」(新庄文明:GC歯科工業, 1992)

口腔保健支援ノート
—健康は健口から—

2003年3月発行

編集 新庄 文明

監修 五島真理為

協力 久保田一寛

吉田 治志

川崎 浩二

西山 毅

発行 スペース伽耶

東京都文京区本郷3-29-10

飯島ビル2F

TEL.03-5802-3805~6

第4部 資料編

平成15年度エイズ対策研究推進事業

「研究成果発表会（国民向け）」

発表会実施結果報告書

行政・教育機関とNGOが連携して行う若者相互のAIDS啓発

～「ヤング・シェアリング・プログラム」の効果と実際～

平成15年度エイズ対策研究推進事業「研究成果発表会（国民向け）」
発表会実施の結果報告

行政・教育機関とNGOが連携して行う若者相互のAIDS啓発
～「ヤング・シェアリング・プログラム」の効果と実際～

1. 申請者 厚生労働科学研究エイズ対策研究事業 主任研究者
五島真理為（特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター 理事長）
2. 実施者 五島真理為（特定非営利活動法人 HIV と人権・情報センター 理事長）
3. 実施期間 2003年11月～2004年3月
4. 開催地（回数） 全国7ヶ所 沖縄 高知 鳥取 愛知 富山 茨城 山形 （計7回）
5. 厚生労働科学研究課題
「エイズ対策における関係機関の連携による予防効果に関する研究」

6. 発表会開催概要

(1) ねらい

厚生労働科学研究の成果について幅広く国民の理解と関心を高めるために、平成14年度に引き続き全国各地で発表会を開催する。

各地方で様々な形式で開催することにより、それぞれの地域のAIDS/NGOと国民及び各機関関係者が互いに顔をあわせ、AIDS対策のあり方について課題を共有し、意見交換や検討をする。また、発表会開催によって得られる国民や各機関の現場の声を研究にフィードバックする。

(2) 内容

テーマ 行政・教育機関とNGOが連携して行う若者相互のAIDS啓発
～「ヤング・シェアリング・プログラム」の効果と実際～

プログラム

- | | |
|-----|--|
| 第1部 | 基調講演
「世界と日本のAIDSの状況～AIDSを通して人権と共生を考える」 |
| 第2部 | 「ヤング・シェアリング・プログラム」デモンストレーション |
| 第3部 | 厚生労働科学研究の概要
・ 厚生労働科学研究の目的と結果
・ 若者とAIDS性感染症 |

- ・ 若者への AIDS 啓発のあり方 プログラムの解説
- ・ 各地域における保健所と教育機関と NGO の連携
- ・ 質疑応答 意見交換

(3) 発表者

研究発表：

五島真理為（主任研究者 HIV と人権・情報センター）
 塩入康史（(財) エイズ予防財団 リサーチレジデント）
 伊藤葉子（分担研究者 中京大学社会学部）
 木下ゆり（研究協力者 HIV と人権・情報センター）

プログラムスタッフ：

伊藤麻里子（HIV と人権・情報センター）
 阿部しのぶ（HIV と人権・情報センター）
 大郷宏基（HIV と人権・情報センター）
 三浦秀章（HIV と人権・情報センター）
 川越道子（HIV と人権・情報センター）

(4) 開催日時・場所・参加者人数

全国7ヶ所（計7回） 1,058名

11月17日（日）	13:00～16:30	沖縄	沖縄県中央保健所 会議室	34名
12月 3日（水）	10:30～12:30	山形	新庄市民文化会館2階小ホール	143名
12月15日（月）	13:30～16:00	愛知	日進市立日進東中学校 体育館	372名
1月15日（木）	15:00～17:00	富山	パレブラン高志会館	65名
1月21日（水）	13:30～16:00	高知	高知商業高等学校 鵬程会館	121名
1月23日（金）	10:45～12:30	鳥取	鳥取短期大学 D205号室	41名
3月15日（月）	13:50～16:30	茨城	茨城県立牛久高等学校 体育館	282名

(5) 参加者の内訳と傾向

- ・ 参加者の内訳は多い順に、一般・学生・NGO関係者864名（84%）、次いで教育関係者135名（13%）、行政関係者59名（6%）であった。
- ・ 開催地域の関係者はすべて当研究班の研究テーマに非常に関心を持っており、特に若者への啓発方法について熱心に取り組みつあるところばかりだった。発表会開催が今年度初めての地域は4ヶ所（沖縄、山形、高知、茨城）、発表会としては2回目で本テーマが初めての地域は2ヶ所（鳥取、茨城）、本テーマ2回目の地域は1ヶ所（愛知）で、すべての開催地において積極的な参加があった。
- ・ すべての開催において、地域の関係機関の意向が反映した方法で対象者への呼びかけや日時などを決めたため、参加者の属性にも開催地の特徴があった。

(6) アンケート結果

※ 別紙参照

7. 協力機関

開催にあたって各地域の諸機関からの協力を得て実施した。

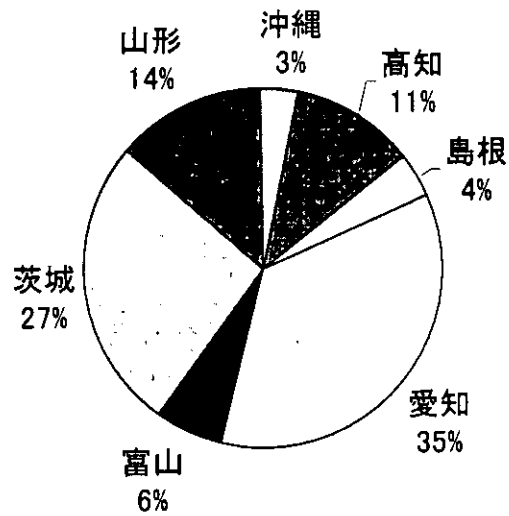
沖縄県福祉保健部健康増進課
沖縄県中央保健所
愛知県教育委員会
愛知県日進市立日進東中学校
山形県立保健医療大学
山形県新庄市立新庄中学校
富山県厚生部健康課
高知市保健所
高知県教育委員会
高知市立高知商業高等学校
鳥取県福祉保健部健康対策課
鳥取県中部福祉保健局
鳥取短期大学
茨城県保健福祉部保健予防課
茨城県竜ヶ崎保健所
茨城県立牛久高等学校

8. 発表会開催による成果

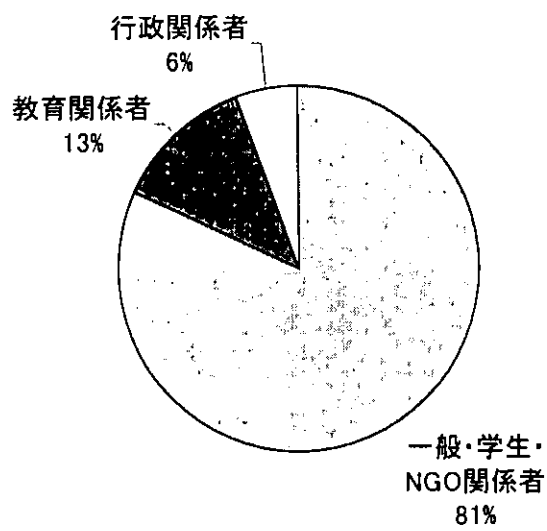
- (1) 各地での「ヤング・シェアリング・プログラム」に対する関心は高く、行政・教育機関に加え医療機関からの積極的な参加がみられた。発表会では講演での発表に加え、デモンストレーションを行ったため、参加者に実際にプログラム体験を通して研究内容を具体的に知ってもらうことができたといえる。
- (2) 「ヤング・シェアリング・プログラム」の当事者（若者）である学生をはじめ、若者への啓発の中心である教育機関、AIDS対策を実施する行政機関等、幅広い層に研究の成果をフィードバックする機会となった。
- (3) 各地で開催するにあたって、教育委員会、主管部局、保健所、学校などの諸機関と予め情報交換をし、地域のAIDS予防対策の現状や方向性について話し合うことができた。地域の意向に合わせて、厚生労働科学研究の成果を還元することができたと同時に、厚生労働科学研究の目的や意義を広く知らしめることができた。また、開催を通してNGO・教育機関・行政機関との連携が深まるきっかけとなった。
- (4) 若者の性の実態や啓発方法について、学校現場や保健所での課題などが共有され、それぞれの事例、実態に関する情報を交換することができた。
- (5) 研究成果発表会をきっかけに、新たな「ヤング・シェアリング・プログラム」の実施や講師派遣依頼、若者へ啓発イベントなどにつながったケースが5件あり、各機関のNGOとの連携のニーズが感じられた。

参加者へのアンケート結果

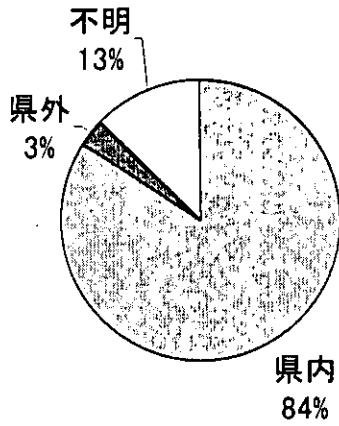
開催地別参加者の割合



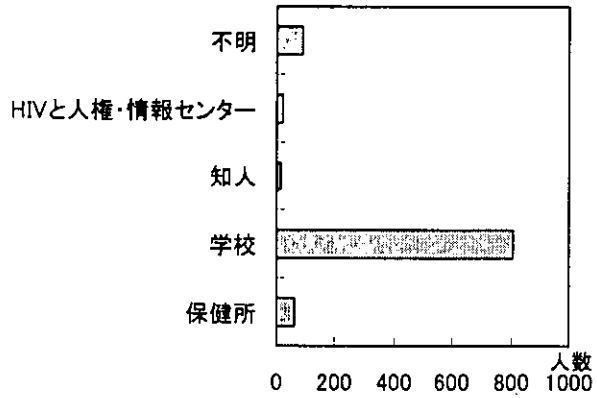
参加者の属性



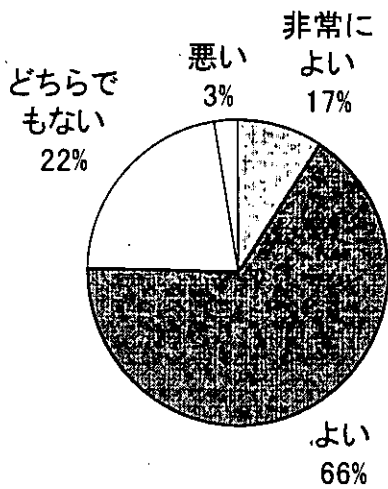
参加者の居住地



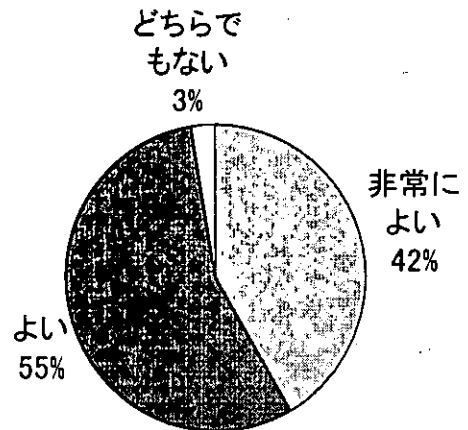
発表会を知ったきっかけ



開催場所・日時などの開催条件
(NGO・行政・教育関係者等 N=177)



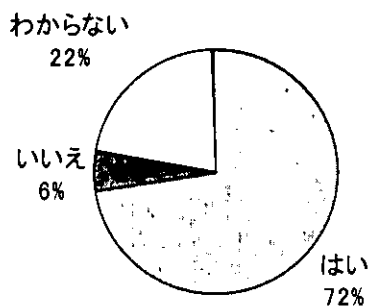
発表会全体について
(NGO・行政・教育関係者等 N=177)



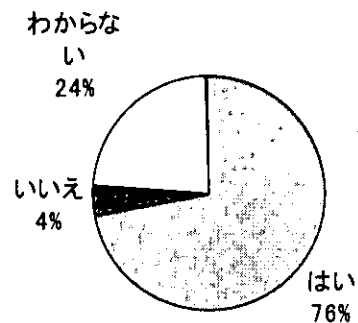
発表会に参加した若者（中学生～大学生）への発表会事後アンケート結果

{発表会の事前、事後に匿名（任意 ID 記入）により記入を求め、前後が一致した 748 名分より抜粋}

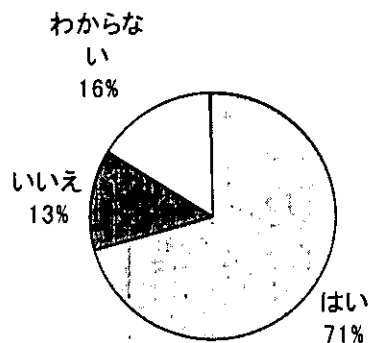
自分のことを今までよりも考えるようになったと思いますか？



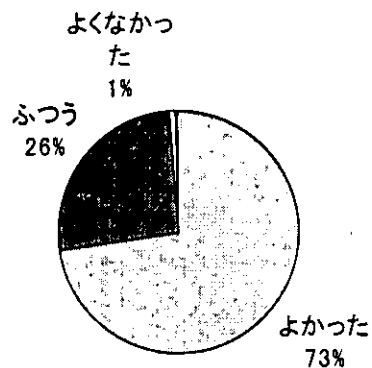
自分以外の人を今までよりも考えるようになったと思いますか？



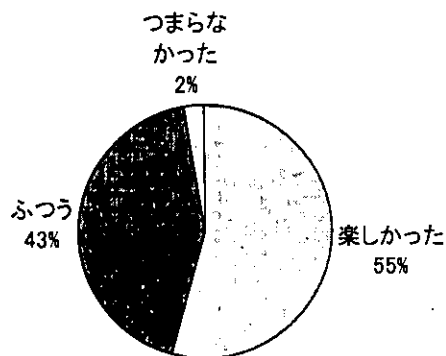
AIDSのイメージは変わったと思いますか？



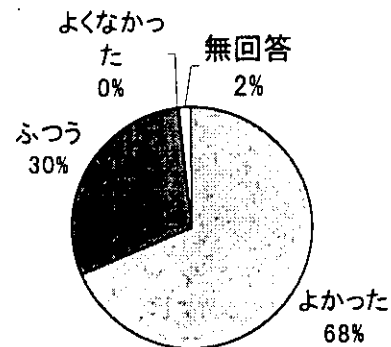
参加してよかったと思いますか？



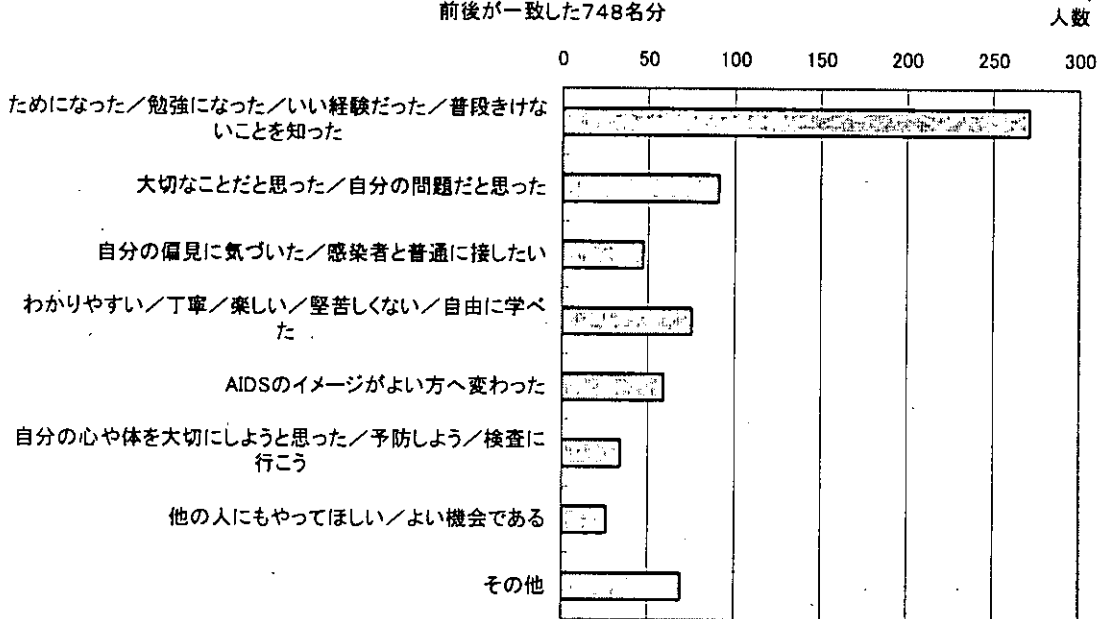
参加して楽しかったですか？



若い人たちが進めたのはどうでしたか？



発表会に参加した若者(中学生～大学生)への事後アンケート自由記述(複数回答)
前後が一致した748名分



発表会に参加した行政・教育関係者による自由記述

●行政関係者

- ・ ありがとうございます。AIDS 啓発方法を実施していくうえで、非常に参考になりました。AIDS 対策が早急に取り組むべき課題のひとつと考えています。今後とも連携していけたらと思っています。
- ・ 今日貴重なお話をありがとうございました。NGO がこれほどの取り組みをされていることに驚きました。行政も負けずに取り組まねばと反省しています。今後も NGO の更なる活躍をお祈り致します。
- ・ 良い研修でした。今月 1300 名の高校生にエイズ教育をします。そこで今回学んだ事を伝えられればと思っています。ありがとうございました。また沖縄で開催して下さい。
- ・ コンドームを使用しての講習は今まで難しいと思っていた。若者が照れずに分かりやすく説明してくれたことはとても新鮮だったし、印象的であった。いい教材を沢山お持ちのようなので、希望としては今後の貸出しをお願いしたい。
- ・ 素晴らしいワークショップで「エイズ」の底に命、共に生きる社会、麻薬、貧困など、多くのメッセージがある事が伝わりました。地域参加させながらエイズ啓発の取り組みをしていくことの参考に

なるワークショップでした。

- ・ 貴重な講演を聞かせて頂きありがとうございました。次年度の世界エイズデーのキャンペーンの実施の際には相談させていただきます。大学祭でのパネル展示を予定しており、何かヒントになるものがあればと思い参加させて頂きました。「何かを伝えたい！」という気持ちが湧いてきて、パネル展示だけでは勿体無いなあと感じてきました。もう一歩踏み込んだ啓発をしてみようと思います。今日は長時間にわたるご講演、ありがとうございました。
- ・ 大変参考になりました。YSP を通した形は初めての体験でした。NGO の方々の頑張っている姿に感動しました。直接 HIV に関わる仕事はしていませんが、今後色々な形で参考にさせていただきます。本当にありがとうございました。
- ・ 世界の状況、HIV 感染者、AIDS の方の状況が分かり易かった。また感染の仕方もうぬぐるみを使ってさりげなく伝えていて分かり易かった。若者にこのような学習会をどんどん行い、感染者を早く見つけて一人でも感染者を減らすために頑張りましょう。今日はありがとうございました。

- ・ これまで高校生エイズフォーラム等で教育現場のエイズ教育を拝見してきましたが、“何か違う”といつも感じています。教えられる、教えられたエイズ発表としか捉える事が出来ません。これが教師を除いて行われたら今回の様な内容になると思います。これが本当のエイズ教育です。ありがとうございました。
- ・ とても参考になった。実際に患者さんと接している様な経験をされているので、説得力が違う。特に人権に関する内容については考えさせられた。キルトが可愛い。春日井市って頑張ってる。
- ・ 沖縄で HIV と人権・情報センターの活動をご紹介頂きありがとうございます。民間団体へ委託している電話相談活動が停滞していたので、今年度は大学生・院生などにも加わってもらい、新規の活動を検討しています。地域では性教育を考える会などが準備されていて、今回のお話はヒントがありました。
- ・ 今日は内容も分からないまま友人の誘いで参加しました。高校生になった気持ちで…ということでしたが、まだ小さい我が子の事を思いながら“こんないい話を将来聞けるのだろうか？自分が親として工夫しながら伝えていけるだろうか？”と考えました。今はHIVの相談を担当していませんが、今後相談を受ける時は命の大切さを主にして、相談を受けたいと思いました。
- ・ 今日は貴重な機会に参加させて頂きましてありがとうございます。五島先生はじめ、スタッフの皆様の優しさや情熱を感じました。私も学校との連携で、いわゆる「性教育」「生命の大切さ」などに関わっていますが、学校での教科学習の中で学ぶ内容と、私達の「通りすがり効果」がどのように関連しているのか、効果があるのか、日々悩んでいるところです。余りにも大きな課題ですが、一人で悩まず、みんなで考えていこうと決意を新たにしました。どうもありがとうございました。
- ・ 若い人達の話が高校生に身近なものとしてよく聞けていたのがとてもよかった。困った時に相談できる人達がいるということで高校生たちも安心できると思います。
- ・ ざわつき効果、通りすがり効果になるほどと思いました。具体的な話や道具を使っていて、分かりやすく興味深く聞くことができました。
- ・ 勉強になりました。

- ・ とても良い学びであったと思います。これからの参考になりました。
- ・ 少グループでの地道な積み重ねが必要であると感じた。同世代の方の説明にたいして若者の反応が良かった。
- ・ 堅苦しくなく、命や病気を考える機会となりました。HIV/AIDSを考える、伝えるということの方法を考え直してみたいと思う。
- ・ 是非、学校関係者に YSP のことを知っていただきたいと思いました。
- ・ とてもよかったです。初めて見ましたが、効果が出ていたと思います。若者の反応がよく、下を向いている子はいませんでした。

●教育関係者

- ・ 貴重な体験ができました。五島先生のお話に心が打たれました。そして YSP の紹介をして下さいました。皆様ありがとうございます。お疲れ様でした。各機関の連携の大切さを学びました。AIDS というと、知識としては理解しているつもりでいても“自分に何ができるか？”について実践されている皆様を通して身近に考えることができました。ピアカウンセリングの良さを改めて実感できました。教育の場で少しでも還元できるようにしていきたいと思います。
- ・ AIDS のことについて、初めて学びました。AIDS という病の怖さは人間の心の中にあるんですね。生きること、性のこと、自分自身のこと、もう一度見直してみたいと思います。今日はありがとうございました。
- ・ NGO の取り組みについて伺う良いチャンスでした。今後学生（看護・助産）にも、こうした活動が出来る様に働きかけていきたいと考えています。HIV と共に STD 全般が若者の間で問題になっています。HIV の入口(?)として STD 予防にも力を注がなくてはと思います。時間が少しオーバーしたのが気になりましたが、今後のご活躍をお祈りしています。
- ・ 私は高校、中学と HIV についての教育を本格的には受けたことが無く、私自身保健委員や JRC 委員をやっても、HIV 月間にはパネルを作って学校の廊下に貼っただけで、何かを「学ぶ」「知る」ということはほとんどありませんでした。学校現場で「性」について、ありのままの指導はタブーなの

- ・かと思っていました。そんな現実の裏では友人(数名)が妊娠・出産・性病やレイプ未遂などに苦しんでいました。だからこそ性の問題は多くの生徒に関心があり、「学びたい」と思っていることだと思います。夜型社会の沖縄では特に大切なことだと思います。これからも頑張ってください。私も私なりにできることを見つけたいです。
- ・AIDS教育を行っていく上で、コミュニケーションは凄く大事だと思います。“大切な人にどう伝えているか”を考えることはこれまでの自分を認めて、これからどう人と接するかを考えるいい機会になると思いました。そこからAIDSについて考える柱をつくっていきけるのではないかと思います。
- ・性に関する指導について、より具体的なものをと常々努力しています。今回の「指導」を見せて頂き、指導の展開で参考になるものがたくさんありました。
- ・ケータイでの出会い系サイト、不特定の異性との交渉など、教室での指導でなく保健室ではかなり詳しい(男性用コンドームの使い方など)指導を行っていますし、HIV検査に保健所(厚生センター)へ受けにくい生徒に(保護者や管理職にも内緒で)付き添って行ったこともあります。今日の研修は日々の自分を思い返しながらとても参考になりました。
- ・高校に勤めています。生徒の中にはセックスが当たり前のようにあります。性については繰り返しの指導が必要だとのことですが、充分できていないところがいっぱいあります。高校生であっても一から教えることが必要だと思う今日この頃です。
- ・子ども達に指導する上で、細かな点までとても参考になりました。もっと時間があって、もっと心の指導などについてお話が伺いたかったです。ありがとうございました。
- ・エイズ教育、性教育をする上での心について教えていただきました。指導するからには自分がもっともって考えて、自分の言葉で伝えていかなければならない部分がたくさんあることを改めて教えていただきました。
- ・参考になりました。今後職場で生かしたいと思います。
- ・具体的な指導例ありがとうございました。また、ひとりひとりの命が大切であり、自己存在感を高める教育がとても必要であると改めて強く感じました。
- ・「命はみんなのもの」「いのちがあること自体それが素晴らしい」が心に残りました。
- ・エイズの感染の仕方についての説明は学校でもすぐに活用できそうです。大変参考になりました。生徒自身が教えられるようになればいいと思います。生徒同士のかかわりが力になるということは生徒会活動でも感じられましたので。
- ・具体例として健康教育プログラムを体験することができて良かったです。自分の仕事をしていく上で対象にあわせた話し方、内容の選び方、教材の使い方など考えさせられました。
- ・高校生を対象としてどのようにHIVの感染経路を伝えたらよいか、コンドームについてどのように伝えればよいか等、今後の参考にできると思いました。
- ・話の中で飾られていたメモリアルキルトの作られた思いがあれば話して頂けたらと思います。
- ・AIDSの指導の必要性について強く感じました。このような研究をしておられるということを知ることができ良かったです。
- ・ぬいぐるみを使って行為による感染のしかたはとてもわかりやすくよかったです。(その前に体液と粘膜の説明もあったので)
- ・自分が性教育をする時に、いつも性行為をすることを「愛しているから」「寂しいから」ということでしていいのかと考え、内容についてどう進めていけばよいか悩みます。援助交際など遊びで性交がある場合が多いこの頃、このような内容のワークがあれば良いと思いました。
- ・心のことについて考えるワークについては是非してみたいです。
- ・生徒たちにも聞かせてあげたい内容でした。
- ・実際に感染者を支えている団体のお話だったので、幅広い内容かつ具体的で頭に残ると思います。
- ・障害者の性の問題についてもっと知りたかった。
- ・世界のエイズの現状(ストリートチルドレン)について驚きと悲しみが感じられた。
- ・プログラムの研修(指導者養成)を受けてみたいと感じた。
- ・性感染症、妊娠の予防について、エイズの感染経路についてわかりやすくレクチャーしていただきありがとうございました。現場でも活用していきたい。

- ・ エイズの現状を知り、具体的な健康教育の実践例を提示して下さり参考になりました。実際、エイズに関する相談に対応したことは無いのですが、今後も学習をすすめるなどして対応できる力をつけていきたいと思いました。相談できるネットワークづくりを進めていきたいと思っています。
- ・ 若者による「メッセージ」が押し付けがましくなく、同じ目線という点で伝わると思う。
- ・ 命について考えさせられる良い機会になりました。
- ・ 人権意識が基本として表れている研修でした。専門的であり具体性があり現場でも役に立つと思いました。
- ・ 具体的な AIDS 指導の参考になりました。学校での実践に役立てたいと思います。
- ・ エイズについて自分自ら学び、児童にも伝えています。昨年、愛猫（阪神大震災のときに我が家に来た）が野良猫に噛み付かれてネコエイズとなってしまう、ウイルスは違うものの症状は同じであるので一週間に一回はインターフェロンを接種しています。この悲しみは家族でなければ本当の理解はないと思っています。この気持ちを保健指導、保健学習の時に伝えています。今日は具体的な予防法もあり参考になりました。
- ・ 命の大切さを訴えるお話には感動しました。HIVの基礎知識、性行為における感染の可能性はともわかりやすくよかったと思います。エイズ教育の大切さを強く感じました。現在は6年生を指導していますが、今後このようなエイズ教育を実践していけたらと考えています。
- ・ 自尊感情を大切にすることに共感しました。実際に高校生を連れてきたらよかったと思いました。
- ・ 教育現場の大人の理解がないと実践しにくいと思いますが、子ども達の立場に立った実態に即した内容で広めていけば良いと思った。
- ・ 命の大切さを子ども達に何らかの形で伝えたいと思いました。
- ・ 実際に子ども達に聞かせてあげたいと思いました。
- ・ 学校での生徒たちへ伝える重要なポイントが得られスッキリしました。
- ・ 生命の大切さについてつくづく考えさせられました。また、避妊について具体的な指導はとても参考になりました。
- ・ 自尊感情を育てる、命の尊さを伝えることが大事だと思っているが、何を伝えることでそれが伝わるかもっと具体的に考えていく必要があると感じました。
- ・ YSPを初めて体験したのですが、性教育に役立つ話し方、資料の提示のしかたが勉強になりました。
- ・ 子どもに具体的に教えてあげたいことはたくさんあるが、保護者からクレームがきたりすることがあるのではなかなか思うような指導が出来ないことがある。今日見せていただいたデモはとても勉強になったし、これだけ AIDS や性感染症が拡がり、性行為の若年化が進む中でやはりきちんと子どもに教えていかないといけないことだと思うので、親の理解を得ながら取り組んでいきたいと思う。
- ・ 学校で指導する際の最新の情報や資料が欲しい。
- ・ 女性用のコンドームの具体的な使用方法を初めて知りました。また、これまで後始末まで指導していなかったことに気づいた。
- ・ 最近、生徒にエイズ指導したところ、保健室へ質問や相談に来るようになりました。私情を交えず問われたことだけを答えるのは難しいと思っています。
- ・ 保健所、学校、NGOの連携が大切だと思いました。NGOの活動を詳しく知ることが出来てよかったです。地域力の強化へのパワーを感じ、小・中・高での系統化したエイズ学習に今日のような話を聞く機会があれば安易な性行為を選ばないと思いました。
- ・ 実際に高校生にこのような指導を受ける機会を設定することができれば本当に良いのに、現実となると難しいと思うと残念でなりません。
- ・ ピア的な存在のスタッフで生徒たちも自然体で聞いたり参加したり出来て良かったと思いました。
- ・ ヤングシェアラーの講義を実際見せてもらうのは初めてで、大変参考になりました。子どもたちに伝えるには歳の近い若い人ならすんなり伝えやすいだろうなと感じました。いろいろな学校へもどんどん入って行ってみたいです。
- ・ プログラムが非常にスムーズで、生徒たちも興味を持って聞いていた。視覚に訴えたり、実物提示や実習を行うことで講演が非常に生きていたと思った。また生徒たちも教室での保健の授業より深く印象に残り、行動化できると思った。
- ・ 実技は必要だと思いました。「大切な人」というワークは自分で考える時間がとれるのでグッドでした。年齢が近いほど親近感があると思いました。

- ・ 事実をもとに、そして正しい知識を伝えて頂き感動しました。私も身近なことから始めることが出来たらと思います。

●その他 一般・医療関係者・NGO 関係者等

- ・ YSP の発想は大事だと思いました。学生のように今から社会に出る人達に性の重要さを教えたいのに、うまく伝わらないのは学校の授業のように感じてしまうのもあるんだと思います。身近なこととして教えることが一番ですね。また命の大切さ、重さをズシッと感じました。参加して良かったです。
- ・ とても素晴らしいお話をありがとうございました。マスコミで HIV・AIDS の恐怖が取り上げられる機会が少なくなった今日、YSP などの若者への対応はとても重要だと思います。もっと YSP について、事例をお伺いしたいと思いました。education ではなく、sharing はとても重要で相乗効果にもなると思いました。これからも頑張ってください！！
- ・ AIDS についてこれまで学校などで得てきた知識の不十分さを感じました。私達が知りたいと思っても分からないことを、とても分かりやすく教えてくれたと思います。AIDS が治療可能である病気であることは衝撃的でした。差別によって苦しんでいる多くの感染者の方々と健康体である人々が共生するために必要な活動をしていると思います。ただ知識を上から下へ伝えるのではなく、考えさせる、同じ目線に立って考えることができる、素晴らしいプログラムだと思いました。
- ・ お話を聞いて、エイズに関するだけでなく、命の大切さについても学ぶ事ができました。日常
- ・ あまり意識することが少ないので、良い機会になりました。ありがとうございます。
- ・ 本日は大変にありがとうございました。周りの友人にも話してみたいけど、どう話せばいいか、また話すまでの話題かと考えることもありました。AIDS のことは私や友人にとって関わりのないことだとしても、友人の友人からや私の周りからの何らか縁で AIDS で悩んでいる人まで、届けばいいなあと思いました。今回をきっかけに話していこうと思います。
- ・ 世界のどこで生まれ育ったかで、命の長さや質までもが違いすぎるという話は衝撃でした。生まれてこれたこと、小さな細胞からこんな大きく育ててくれた周りの人達に感謝し、次の命を育む女性として正しい知識を得ながら生きていかなければと思った。
- ・ コンドームのつけ方の実習はとても具体的で分かりやすかった。エイズに対する差別・偏見をどう無くしていくのかが、これからの課題だと感じた。
- ・ 私は知り合いを通じて、エイズデーにちなんだイベント活動に参加するようになりましたが、せっかくやるのならばイベントに参加してくれた多くの人々が、エイズを身近な問題として捉えてくれるようなイベントにできないかと考えました。今日のお話やグループワークは、参考になる点や便乗発展させるような内容が沢山ありました。本当にありがとうございました。またメッセージキルトの存在は知っていましたが、日本でも行われていることは知りませんでした。ぜひメッセージキルトを作りたいです。

資 料

プライバシーマニュアル

Confidentiality

プライバシーを守ること

PART 1

プライバシーのルールを学ぶ

一人一人の背景や生活習慣、言語や文化が異なることは、私たちが誇るべき多様性であり、私たちの生活やコミュニティ全体を豊かにしてくれるものでもあります。特定の属性をもつ人たちや集団が差別や偏見の対象になることは、とても悲しいことであると同時に、その社会の成熟度ひいてはその社会をつくる一人一人の品性が問われることでしょう。

HIV 感染者や AIDS 患者、あるいは感染を疑われた人たちは、きびしい差別と偏見の対象にされてきました。その多くは、プライバシーの侵害が原因となり、また結果となりました。

差別や偏見に対して声を上げて反対を唱えることも大切ですが、もっといいのは、あらかじめ差別や偏見が起きないようにすることです。

差別や偏見の「予防」について考えてみましょう。

差別や偏見は人の心の中で生まれます。

一人一人の心を見つめてみましょう。

自分を知ることからはじめましょう。

セルフワーク 「わたしのプライバシー①」

あなたにとって、秘密にしておきたいこと、知られたくないこと、触れられたくないことはなんですか。子供の頃や今までにどんなことがあったか思い出してみましょう。また、この先こんなことがあるかもしれない、と考えてみましょう。

セルフワーク 「わたしのプライバシー②」

あなたのプライバシーについて、誰にどこまで伝えたいと思いますか？ また、伝えることができますか？